

学校長 殿  
理科担当主任教諭各位 殿

2024 年（令和 6）年度

## 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会研究助成募集要項



TDK創立者  
齋藤憲三先生

（明治31年2月11日～昭和45年10月31日）



TDK育ての親・当財団創設者  
山崎貞一先生

（明治42年8月5日～平成10年11月20日）

### 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会について

齋藤憲三先生（秋田県にかほ市平沢出身、TDK株式会社創立者）は、生涯科学技術の振興に努められ、その研究と実践に情熱を傾けて多大の功績を残されました。当公益財団法人は先生の高風を敬慕し、その事蹟を顕彰するとともにその意志を継ぎ、故前理事長山崎貞一（TDK株式会社2代目社長）が中心となって昭和46年に設立されたものであります。

齋藤憲三先生の終生の念願であった科学技術の向上発展のためには、まず、少年時代から“科学する心”の芽を育成することが最も効果のあるものと考え、当公益財団法人はその事業の一つとして、秋田県の科学教育振興のため、毎年県内の小・中・高等学校・特別支援学校が推進する児童・生徒のグループ研究と教員の個人指導に対して助成金を贈呈しております。

2024（令和6）年度グループ研究の助成校及び教員の個人研究助成を別記要項により募集いたしますので、当公益財団法人の趣旨をご理解の上、是非応募活用下さるようご案内申し上げます。

2024（令和6）年4月

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

# 目 次

---

グループ研究助成募集要項 .....	1
“グループ研究”助成申込書 .....	4
助成研究報告書（グループ研究用） .....	7
グループ研究報告書要領 .....	8
研究報告書見本 .....	9
個人研究助成募集要項 .....	10
“個人研究”助成申込書 .....	11
助成研究報告書（個人研究用） .....	14
指導者の皆様へ .....	15
令和3年度 研究助成金助成校一覧 .....	18
令和4年度 研究助成金助成校一覧 .....	20
令和5年度 研究助成金助成校一覧 .....	22

[別表] 研究助成状況①（昭和47年度～平成15年度）  
研究助成状況②（平成16年度～令和5年度）

# グループ研究助成募集要項

## 1. 応募資格

秋田県内の国公立小・中・高等学校（特別支援学校・定時制校等を含む）で児童・生徒の科学・技術する心の育成に、意欲的に取り組む学校であり、本年度のテーマを持って、研究活動をしようとする児童・生徒のグループ。

## 2. 研究課題

自然科学等理科に係わる具体的なテーマであること。（理科の学習指導要項にあげられている内容そのものの研究よりも、それらに関連する問題を、更に深く掘り下げるとか、あるいは、郷土の自然に関する研究テーマ等がのぞましい。）

但し、高校の場合は、工業・農業・水産・家庭等に関する専門分野の研究テーマでもよい。

## 3. 助成研究の期間

助成研究の期間は、毎年4月1日から翌年1月16日までとします。

なお、継続的な課題研究であっても、1か年を区分とします。

## 4. 応募方法

当研究助成を希望される学校は、当会の、所定の応募用紙により、期限までに、申込み手続きをして下さい。（同一校からの応募は2件の場合は、必ずクラブ名を変えて下さい）

申込み・・・・・・・・・・・・・・・・別紙、様式－1①～③

(1) 期 限 5月9日(木) 必着のこと

(2) 記入内容

- ① 学校の概要と研究グループ及び研究形態
- ② 研究課題にその趣旨（簡潔に）
- ③ 助成金の使途内訳（具体的に）
- ④ 具体的な研究実施計画

(3) 応募書類の提出部数 顕彰会事務局用 1部 + 選考委員配布用 12部 = 計 13部

## 5. 助成校の選定と通知

当会の選考委員会で、審査の上、決定する。

その結果は、速やかに学校長宛に通知します。（5月下旬）

## 6. 助成校数及び助成金額

小 学 校	1 件当り	5 万円まで	8 件(校)程度
中 学 校	”	10 万円まで	22 件(校)程度
高 等 学 校	”	13 万円まで	30 件(校)程度
特別支援学校	”	(小・中・高等学校に準ずる)	

本研究助成金は、債券（国債、社債等）の運用利息の収入で運営していますが、日本銀行の異次元の金融緩和政策及びマイナス金利導入の影響を受け、当顕彰会の収入が減少する非常に厳しい環境下にあります。

齋藤憲三先生の遺訓「科学する心」を後世に継承して行くために、今後金融市場が正常化するまでは、収入に見合った事業運営のため助成事業が縮小しますが、今まで同様に秋田県内の小・中・高校の理科教育に貢献して参りますのでご理解とご協力の程宜しくお願い申し上げます。

## 7. 助成金の使途

助成金は、研究課題の研究過程において、必要な器具、参考資料、\*交通費等諸経費に充当のこと。  
\*交通費は原則調査研究に関わる旅費で、学会発表会・研究発表会とは区別下さい。

## 8. 研究結果の報告

助成研究は、翌年1月16日(休)までに、下記様式による研究報告書を、当会へ提出する。

継続研究の場合は、当年度1か年の研究報告書を提出する。

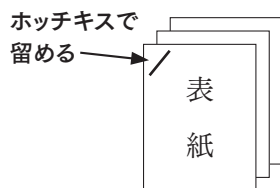
1) 表紙（別紙、様式－2①）には、下記内容を明記し、次の報告概要を付して提出する。

- (1) 研究課題
- (2) 学校名とクラブ名及び研究形態
- (3) 指導教諭名
- (4) クラブ生徒氏名及び写真貼付
- (5) 学校長氏名及び学校長印

2) 報告概要（別紙、様式－2②）は研究報告書要領（P 8）により、下記事項を作成する。

- (1) 研究の動機、目的またはねらい
- (2) 研究のすすめ方、実施の方法及び経過内容
- (3) 研究成果とまとめ
- (4) 反省と今後の課題
- (5) その他付記
  - ① 参考文献
  - ② 他団体への発表実績及び受賞状況
- (6) 会計報告（領収書は不要）

### 3) 報告書の綴込み方法



指定の表紙（様式－2①）をつけて、最後尾のページに会計報告と、それぞれのページにページ番号を記入下さい。

報告書をファイル及びケースに入れないうご注意願います。

### 4) 研究報告書の提出部数 顕彰会事務局用 1 部 + 選考委員配布用 12 部 = 計 13 部 (下記 注：1 参照のこと)

注：1. 事務局用及び選考委員への報告書に用いた写真・図表・スケッチ・地図等は、印刷製本ができる程度の正確さ・鮮明さ（可能な限りカラーコピー推奨）を有するものとしてします。

2. 課題研究を中止とするときは、当会に通知し、助成金の返還を要することに留意して下さい。

## 9. 特 典

優秀な助成校に対しては、後日厳選の上、齋藤憲三・山崎貞一奨励賞として、賞状と共に、奨励金並びに記念の楯を贈り表彰する。

## 10. 参考（研究助成プロセス）

- |    |                 |  |
|----|-----------------|--|
| 1) | 研究助成校募集期間       | 4月1日～5月9日  |
| 2) | 研究助成申込書類提出期限    | 5月9日(木) 必着厳守のこと  |
| 3) | 助成の決定、助成金交付     | ・助成の決定は5月下旬<br>・助成金交付は、研究助成認定証交付式<br>(6月14日(金) 於 ホテルメトロポリタン秋田) |
| 4) | 助成研究の現地視察指導     | 9月2日～13日   |
| 5) | 助成研究報告書提出期限     | 令和7年1月16日(木)   |
| 6) | 齋藤憲三・山崎貞一奨励賞の選考 | 令和7年2月13日(木)   |
| 7) | 齋藤憲三・山崎貞一奨励賞の授賞 | 令和7年3月13日(木)<br>齋藤憲三・山崎貞一奨励賞授賞式                                |

(於 ホテルメトロポリタン秋田)

[申込先]

〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字立沢200番地

T D K株式会社 にかほ工場北サイト

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会事務局 小幡正則

T E L (0184) 35-6543 又は35-6515

F A X (0184) 35-6543 又は35-6586

ホームページアドレス：<http://www.saito-kenzo.jp>

メールアドレス：[info@saito-kenzo.jp](mailto:info@saito-kenzo.jp)

受付日	令和 年 月 日	番号	No.
-----	----------	----	-----

採	否
---	---

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

理事長 横山 忠長 殿

## 公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 “グループ研究” 助成申込書

令和 年 月 日提出

(1) 学校の概要と研究グループ				
学 校 名				
所 在 地	〒 _____			
	TEL No.			
	FAX No.			
児 童 生 徒 数	学級数		教員数	
研究グループ名			グループ 構成数	年生 人 年生 人 年生 人
研究形態 <small>(☑チェックを入れて下さい)</small>	<input type="checkbox"/> 授業 <input type="checkbox"/> 課外 <input type="checkbox"/> その他 (   )			
指 導 教 員	氏 名	専 攻 科 目	校 務 分 掌	担 当 ク ラ ブ
	(1)			
	(2)			
	(3)			
貴会の研究助成募集要項に基づき申込みます           <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-end;"> <div style="text-align: center;">           学校長氏名             _____         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center; width: 150px;">             学校長 印           </div> </div>				

## (2) 研究課題とその要旨

## イ. 研究課題

## ロ. 研究課題の要旨（動機、ねらい、目的、内容等）

動機…始めようと思ったわけ。きっかけとなったこと。など  
 ねらい…突き止めたいこと。解き明かしたいこと。取り組む  
 前の予想。など

目的…何のために行うのか。目指していること。など

内容…調べ（明らかにし）ようと考えていること。など

※継続研究の場合は前年までの研究内容や成果を簡潔に添えてください。

(3) 助成金の使途内訳 （具体的に）

使途毎に概算額を示してください。

合計が助成申請額と一致するようにしてください。

原則として次のような場合は助成の対象外となります。

- ・学会・研究発表会参加のための交通費
- ・本研究を目的としない備品            など

助成申請額

万円

## (4) 具体的研究実施計画

できるだけ月（旬）ごとに計画の内容や研究の方法の概要を示してください。

(例)

月	計画内容	方法（調査場所）
5		
6		
7		



令和 6 年度

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 助成研究報告書 (グループ研究用)

令和 年 月 日提出

研究課題：

[新規・継続]

<p>学校名及び クラブ名：</p> <hr/> <p>研究形態： <small>(☑チェックを 入れて下さい)</small></p> <p><input type="checkbox"/> 授業 <input type="checkbox"/> 課外 <input type="checkbox"/> その他 ( )</p> <hr/> <p>指導教諭：</p> <hr/> <p>生徒氏名： (代表) ( 年生)</p> <hr/> <p>( 年生) ( 年生)</p> <hr/> <p>( 年生) ( 年生)</p> <hr/> <p>( 年生) ( 年生)</p> <hr/> <p>( 年生) ( 年生)</p>	<p>指導の先生と部員メンバーの 写真を貼付下さい</p>
---	-----------------------------------

<p>貴会より助成を受けた上記研究の成果を報告します</p>  <p style="text-align: center;">_____ 学校長氏名</p> <p>公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会</p> <p style="text-align: center;">理事長 横山 忠長 殿</p>	<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <p>学校長 印</p> </div>
--	--

## —— グループ研究報告書要領 ——

### 1. 助成研究報告書は、次の要領で作成し、表紙（様式－2①）に付して提出する。

- (1) 用紙は A 4 サイズで、縦長、横書きとする。パソコン、ワープロ可。  
A－4 版手書きの場合必ずしも 400 字でなくてもよい。
- (2) 枚数は、文字、図表、写真類を含め 20 ページ以内（ページ番号を記入） に収まる枚数とする。  
（1 ページには、横 23 字×縦 37 行の 2 段組で 1,702 字入る。—— 見本添付（P 9）  
従って、図表、写真類を含め、1,702 × 20 ページ以内に収めてください。）
- (3) 図、グラフ、コンピュータのプリント、写真類はできるだけ精選し、鮮明（可能な限りカラーコピー推奨）なものを用いる。
- (4) 指導された先生と部員メンバーの写真を表紙に貼付下さい。

### 2. 報告書の内容は、概ね、つぎの項目をもって構成する。

但し、必要に応じ、各項目の中を、適宜細分してかまわない。

- (1) 研究の動機、目的又はねらい（研究テーマの設定した事由と目的又は、ねらい、なお、継続テーマの報告のときは、前年までの研究概要も、要領よく記入する。）
- (2) 研究の進め方、実施の方法及び経過内容（どんな研究のやり方や考え方をもって、この課題に取組み推進しようとしたかを記し、研究の構想に添って、進められた具体的研究の方法、プロセスとその結果を、順を追って記す。又、必要に応じて図示、写示、項目を細分して説明する。）
- (3) 研究成果とまとめ（まとめとして、研究の完了結果と帰結、考察の結びを記す。）
- (4) 反省と今後の課題（研究の課題を振り返って、設定課題に対する成果が、十分に満足出来るものであったかどうかの反省と、残された課題や、更に、追求する為の課題につき記す。）
- (5) イ. 参考文献（研究を推進するに当たって、参考に付した文献を明記する。）  
ロ. 研究発表実績及び受賞可否（当該研究につき、他団体に報告、発表、受賞の実績がある場合、その発表形態、時期、団体名、入賞結果を列記する。）
- (6) 会計報告（具体的に、支出の項目と金額を列記する。領収書は不要。）

以上

# 研究報告書見本

23字×37行×2段=1,702字

← 23字 →

← 23字 →

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	

# 個人研究助成募集要項

## 1. 応募資格

秋田県内の小・中・高等学校（特別支援学校・定時制校・高専等を含む）の理科学担当教育で、その職にあり、自然科学等（高校教員の場合は、工業・農業・水産・家庭等に関する専門分野の研究でもよい）に関する研究をしている者。又、意欲的にしようとしている者。

## 2. 研究課題

自然科学等に関する研究テーマであること。

但し、自己の資質を高め、以後の教育指導に役立つものであること。

## 3. 助成研究期間

原則として、翌年1月16日(木)までとする。

但し、研究課題の内容によっては、2～3年継続助成することもある。

## 4. 応募方法

当会所定の応募用紙（別紙様式－1 A～C）、所定事項を記入の上、申込みを行う。

その他応募方法は、グループ研究募集要項に同じ。

## 5. 助成研究者の選定と通知

グループ研究の選定と通知に同じ。

## 6. 助成件数と助成金額

1) 助成件数・・・・・・・・・・ 3～5件

2) 助成金額・・・・・・・・・・ 1件当り 8万円まで

## 7. 助成金の使途

グループ研究の使途に同じ。

## 8. 研究結果の報告

研究結果の報告は、（様式－2 A）の表紙に、報告事項を適宜作成の上、報告する。

報告事項については、グループ研究募集要項に準ずる。

〔申込先〕 〒018-0402 秋田県にかほ市平沢字立沢200番地 TDK株式会社 にかほ工場北サイト

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会事務局 小幡正則

TEL (0184) 35-6543 / FAX (0184) 35-6543 又は35-6586

ホームページアドレス：<http://www.saito-kenzo.jp>

メールアドレス：[info@saito-kenzo.jp](mailto:info@saito-kenzo.jp)

受付日	令和 年 月 日	番号	No.
-----	----------	----	-----

採	否
---	---

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会  
 理事長 横山 忠長 殿

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 “個人研究” 助成申込書

令和 年 月 日提出

(1) 申込者身上						
(ふりがな) 申込者氏名	( ) 印	性別	年令	満	才	
勤務先名 (学校名)		職名				
勤務先所在地	〒 _____ TEL No. _____ FAX No. _____					
学歴 (最終)						
職歴						
研究歴						
上記申込者の研究は、貴会の助成対象にふさわしいものと認め推薦します						
学校長氏名 _____			<table border="1"> <tr> <td>学校長 印</td> </tr> </table>			学校長 印
学校長 印						

(2) 研究課題とその要旨

イ. 研究課題

ロ. 研究課題の要旨 (動機、ねらい、目的等)

(3) 助成金の使途内訳 (具体的に)

助成申請額 万円

(4) 具体的研究実施計画

令和 6 年度

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会 助成研究報告書 (個人研究用)

令和 年 月 日提出

研究課題：

[新規・継続]

研究期間： 令和 年 月 ~ 令和 年 月

貴会より助成を受けた上記研究の成果を報告します

所属名：

研究者氏名：

印

学校長氏名：

学校長  
印

公益財団法人 齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

理事長 横山 忠長 殿



## 指導者の皆様へ

令和6年度の「公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会研究助成」の募集に対して、クラブ活動、部活動、総合的な学習の時間の学習グループ、及び選択教科理科の研究グループなどから積極的に御応募いただきたく、よろしくお願い申し上げます。

また、公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会の支援の基に県教育研究会理科部会が毎年秋に主催している全県児童生徒理科研究発表大会において、各校のグループ又は個人が地道に行っている研究成果を発表することも、子供たちの科学への夢を膨らませ、探究心の向上を保障する機会となっております。

この機に、秋の発表に向け、春から計画的に研究活動を進め、じっくりと取り組むことができるよう支援するとともに、率先して発表会に参加して意見交換することが期待されます。

### 自由研究の進め方

#### 1 テーマを見付ける

テーマはこんなところにあります。

- ①授業の中で疑問に思う ②校内外を歩く ③人（友達や家族、先生に聞く）
- ④家の外に出る ⑤テレビを見る ⑥インターネット（ホームページ）で調べる
- ⑦遠足や社会見学で不思議に思う……など。つまり、どこにでもあるということです。

子供は、「熱しやすくさめやすい」のが当たり前です。いったん選んだ以上はこれを自分の問題として強く認識し、自力で探究していこうと努力する気持ちをもたせるために、テーマを決定するまでの留意点として

- (1) 教師は、日頃から理科の授業などを通して、子供自身が日常の事象を一応疑ってみる力を身に付けさせ、自然の物事・現象の中に不思議さを感じることができるよう感性を磨いてやる。
- (2) 子供が疑ってみたことに対して、教師も同じ目線で一緒に調べていくよう心掛ける。
- (3) 子供の強い興味に合致したテーマの選定や、個に応じたテーマを設定できるよう助言する。
- (4) 研究途中の激励や探究方法の発見に協力するなどの支援よりも、テーマ決定時に「郡市理科研究発表会で発表する」あるいは「○△科学論文コンクール」に出品するなどの途中駅や終着駅の目標をもたせるようにする。

このような教師の支援があって、初めて子供は自発的に努力するようになり、また、こうして得た結果味わう成功感や充実感は、体験者だけが感得できるものであって、これが、次のステップに強い探究意欲となって現れてきます。

これまで、全国のトップクラスの評価を受けた秋田県の中高生の研究例として、次のようなものがあります。

- ・「砂時計をひっくり返すと砂が全部落ちるまでの時間が違うのは、なぜ？」
- ・「スパゲッティが中央で折れないわけ？」
- ・「リンゴのあくはなぜできるの？」
- ・「カタツムリの筋肉はどんなふう動く？キャタピラのようにになっているのかな？」
- ・「スルメを焼くとどうして決まった方にめくれあがる？」
- ・「〇〇地方に雷が落ちやすいのはなぜ？」

よいテーマは、意外と身近で誰もが注目しそうなものであるという共通点をもっています。

## 2 研究の進め方

### (1) 研究の計画を立てる

①何を（何のために＝どんな目的で） ②いつ ③どこで ④どうやって（研究の方法）

(2) 気付いたことはノートに記録する→観察・実験のことだけでなく必要事項を全部メモする

### (3) 観察・実験をする

①順序よくやる→簡単に結果の出るものは繰り返し行う。

②比べるときは条件を考える→一つのことを比べるときは他の条件をすべて同じに→条件制御

③より正しく記録するために、利用できる機器をすべて利用する（カメラ、ビデオカメラ…）

## 3 研究のまとめ

### (1) まとめる手順

(例)

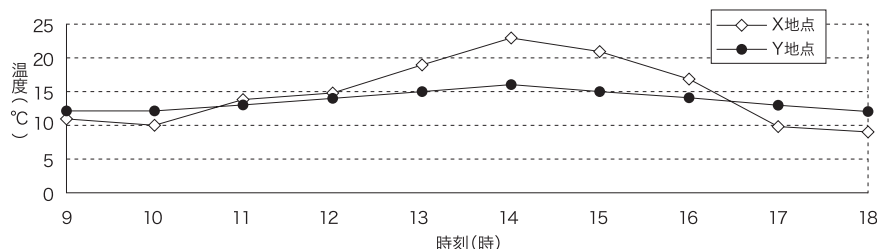
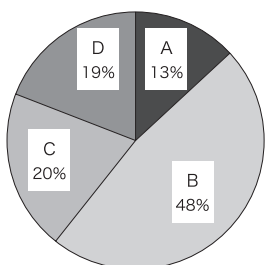
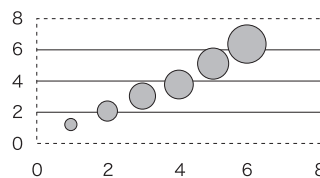
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「きっかけは何なのか…生起している現象は、今まで学んだどんなことと関係があると考えたのか」</li> <li>・「気付いたこと、はっと思ったことから、どんなきまりを思い浮かべ、何と関係がありそうだったのか」</li> </ul>	<p>1 研究の動機</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分が何をどのように調べようとしたのか」</li> <li>・「どんなことをねらい、何をはっきりさせたかったのか」</li> </ul>	<p>2 研究の目的</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>
<p>※調べたことが複数ある場合は、内容ごとに方法と結果を載せる</p>	<p>3 研究のすすめ方</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「何を調べるためにどんな方法で行ったのか」</li> </ul>	<p>4 研究の方法</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「結果はどうなったのか→グラフや表を使って…」</li> </ul> <p>※調べたことを全部表す必要はない→6につながるもののみ示す</p>	<p>5 研究の結果</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「研究の結果から何が分かったのか」</li> </ul> <p>※分かったことは、読み手に伝わるよう分かりやすく簡潔に表す</p>	<p>6 研究のまとめ</p> <p>(わかったこと)</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「この部分がまだよく分からない」</li> <li>・「こここのところをもっと調べたい」</li> </ul>	<p>7 反省と今後の課題</p> <p>○○○○○○○○○○○○</p>

(2) まとめ方

- ①ノートやレポート用紙にまとめる（図表はのりで貼る）
- ②原稿用紙にまとめる（子供自身がワープロソフトで打つ）
- ③アルバムを使ってまとめる→分かりやすい
- ④模造紙にまとめる→研究発表会における一般的な方法→OHP
- ⑤ビデオ（物体の動きや動物の行動などコマ送りするのも一手段）
- ⑥パソコンのプレゼンテーションツールでまとめる→それだけで分かりやすいが、音声を吹き込んだものを作ると「発表」そのものを記録として残すことが可能になる。

(3) 図表や資料はもっとも適切なものを

- ①割合だったら、円グラフや帯グラフ
- ②時間を追っての変化だったら、折れ線グラフ
- ③二つの比較だったら棒グラフ…など適切なものを使う

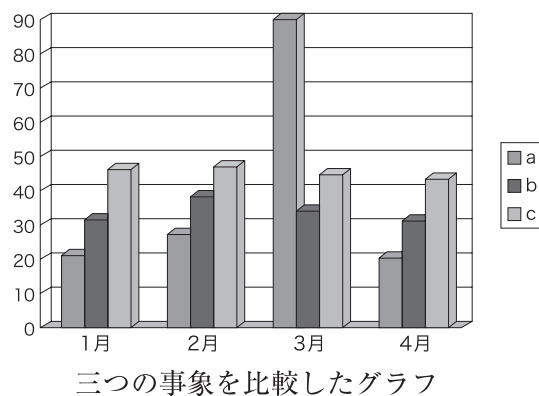


最大の秘訣は→迫力のある決定的な写真



いなずまの様子

インパクトのある分かりやすい図表



三つの事象を比較したグラフ

# 令和3年度 研究助成金助成校一覧

齋藤憲三・山崎貞一奨励賞受賞校 ●金賞 ◎銀賞 ●銅賞

※平成28年度までにあった特別賞はなくなりました

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研究課題	助成金
小学校	1		秋田市立旭南小学校 飼育・栽培委員会	元気にチャレンジ1 「花をよりきれいに咲かせよう！」	50,000円
	2		秋田市立旭南小学校 花を愛する会	元気にチャレンジ2 「切った花を生かそう！」	50,000円
	3	●	にかほ市立平沢小学校 サイエンスクラブ流星観測班	流星のひみつをさぐる4	50,000円
	4	◎	にかほ市立院内小学校 サイエンスクラブ	寒沢川水系～水のきれいさと生きものの関係	50,000円
	5	●	にかほ市立金浦小学校 科学クラブ	コケの不思議を探ろう2	30,000円
	6		にかほ市立象潟小学校 サイエンスクラブ	卵が固まるひみつ	50,000円
中学校	1	●	由利本荘市立大内中学校 科学部物理研究グループ	「良寛は、なぜ腰をかがめながら手まりをついたのだろうか」～手まりの弾性～	100,000円
	2		由利本荘市立本荘南中学校 南中科学部水滴班	ポタン、ポタ、ピチャの謎～落ちてくる液体と受け止める液体が作る様々な規則性を探る～	100,000円
	3	◎	由利本荘市立本荘南中学校 南中科学部松葉班	松の葉相撲 勝利への道	100,000円
	4		由利本荘市立本荘東中学校 科学部植物の成長と二酸化炭素濃度との関係調査班	植物の成長と空気中の二酸化炭素濃度の割合について	100,000円
	5		由利本荘市立西目中学校 トリガーチーム	結晶化へのトリガー	100,000円
	6		由利本荘市立西目中学校 咀嚼音チーム	咀嚼音	100,000円
	7		にかほ市立仁賀保中学校 理科部	ミニトマトの成長と土壌の固さには関連があるのだろうか	100,000円
	8	●	にかほ市立象潟中学校 科学部スポンジーズ	スポンジの吸水の秘密を探る	100,000円
	9		にかほ市立象潟中学校 科学部たにていー	水温の変化によるネオンテトラの行動の秘密を探る	100,000円
	10		大仙市立大曲中学校 科学部	水質改善～玉川に学ぶ～	100,000円
	11		美郷町立美郷中学校 科学部3年	トミヨ属雄物型の研究 PART10	100,000円
	12	◎	横手市立横手明峰中学校 科学部	横手市西部はなぜスイカ・ブドウ・ホップの名産地になったのか～横手盆地平野部の微地形分布との関連～	100,000円
	13		横手市立横手北中学校 科学部	カルメ焼きを科学する Part.2 ～カルメ焼きを膨らませる黄金比率とは～	100,000円
	14		横手市立横手南中学校 科学部	雑巾がけの極意 ～きれいな雑巾で残さず汚れを拭き取るには～	100,000円
	15		横手市立十文字中学校 科学部	電源不要！エコスピーカーの性能を追究せよ！	100,000円
	16		横手市立増田中学校 剣道部	快適な練習環境を求めて ～不快なカメムシを退治するには～	100,000円
	17	●	湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部	生物がつくる構造の利点とその活用 パート2	100,000円
高校	1		秋田県立大館鳳鳴高等学校 生物部	環境DNAを用いたPCR法によるニホンザリガニの生息地の調査	130,000円
	2	◎	秋田県立大館鳳鳴高等学校 化学部	貝殻由来炭酸カルシウムの特性評価 —pH調整剤および吸着剤としての応用	130,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金	
高 校	3		秋田県立十和田高等学校 「かづの学」(クマの食害調査班)	ツキノワグマによる食害に対する 忌避効果に関する基礎研究	130,000円	
	4		秋田県立能代高等学校 2年理数科物理班	衛星データの取得とその応用について	130,000円	
	5		秋田県立能代高等学校 2年理数科化学班	災害時におけるチンダル現象を利用した より明るい照明の確保についての研究	130,000円	
	6		秋田県立男鹿海洋高等学校 課題研究波力発電班	ネオジム磁石を利用した波力発電 ～活用への道～	130,000円	
	7	◎	秋田県立秋田高等学校 生物部緑茶班	緑茶成分物質による抗生物質の抗菌効果への影響	130,000円	
	8		秋田県立秋田高等学校 生物部遺伝子班	遺伝子導入の効率の向上	130,000円	
	9	●	秋田県立秋田中央高等学校 躍進探究部生物班	なぜミズヒキの斑は生じるのか	130,000円	
	10		秋田県立秋田中央高等学校 躍進探究部化学班	過冷却で下がる温度について	130,000円	
	11		秋田県立新屋高等学校 理科研究部	校内敷地内及び新屋地域における カメムシの生態調査	130,000円	
	12		秋田令和高等学校 自然科学部	千秋公園における脊椎動物、 節足動物を主とした生物相調査	130,000円	
	13	●	聖霊女子短期大学附属高等学校 科学部人工宝石班	人工宝石を作ってみよう！	130,000円	
	14		秋田県立秋田南高等学校 自然科学部鳥類・植生調査班	猿田川における植生と鳥類相の 変化についての研究	130,000円	
	15	◎	秋田県立秋田南高等学校 自然科学部マイクロプラスチック調査班	猿田川の土壌や水生動物に含まれる マイクロプラスチックの研究	130,000円	
	16		秋田県立本荘高等学校 科学部	身近な食品や植物の抗菌作用と その応用についての研究	130,000円	
	17		秋田県立由利高等学校 理数科2年課題研究化学班	身近な洗剤や植物などの消臭作用についての研究	130,000円	
	18		秋田県立横手清陵学院高等学校 メカトロ部	ロボット用センサーの利用方法と応用利用の研究	130,000円	
	19		秋田県立横手高等学校 生物研究部	トンボの頭をかしげる行動について	130,000円	
	20	◎	秋田県立湯沢翔北高等学校 工業クラブ制御班	ドローンを使って害鳥(害虫)から身を守る研究	130,000円	
	個 人	1		阿部 大輔 秋田県立新屋高等学校	「秋田×SDGs」をテーマとした教材研究	80,000円
		2		高橋 健一 男鹿市立船越小学校	「空気」に対する見方・考え方を豊かにする小学校理科の授業改善に 関する研究～「空気」に着目したカリキュラム・マネジメントを通して～	80,000円
3			東海林 拓郎 秋田県立能代高等学校	根箱を活用した「生物」教材の開発 ～窒素循環と微生物活性の視点から～	80,000円	
4			百木 慶郎 秋田県立横手城南高等学校	地表面の熱収支と地下温度分布の関係について	80,000円	
5			小林 国元 秋田県立湯沢翔北高等学校	フライス盤加工による変形の研究③	80,000円	
6			渡邊 義典 秋田県立湯沢翔北高等学校	フライス盤加工による仕上げ面の研究	80,000円	
合 計					5,060,000円	



# 令和4年度 研究助成金助成校一覧

齋藤憲三・山崎貞一奨励賞受賞校 ●金賞 ◎銀賞 ●銅賞

※平成28年度までにあった特別賞はなくなりました

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
小 学 校	1	●	秋田市立旭南小学校 花を愛する会	元気にチャレンジ③学校花壇を自分たちで作ることに挑戦しよう!!～冬越しした花・採集した種子をもとにして～	50,000円
	2		秋田市立旭南小学校 オオカマキリ研究会	元気にチャレンジ④オオカマキリの研究 ～オオカマキリの飼育に挑戦しよう!!	50,000円
	3	●	にかほ市立平沢小学校サイエンス クラブ鳥海山の雲観測班	鳥海山が見えない日は、次の日雨になるのか?	50,000円
	4		にかほ市立院内小学校 サイエンスクラブ	君はだあれ? ～ダンゴムシ VS イソコツブムシ (ミズムシ?)	50,000円
	5	◎	にかほ市立金浦小学校 科学クラブ	コケの不思議を探ろうⅢ ～校地内のコケの観察から～	30,000円
	6		にかほ市立象潟小学校 サイエンスクラブ	微生物を培養しよう	50,000円
中 学 校	1		秋田県立秋田南高等学校中部 自然科学部	猿田川の研究	40,000円
	2		由利本荘市立大内中学校 科学部	高齢者の徘徊を通知して介護士さんを手助けする	100,000円
	3	●	由利本荘市立本荘南中学校 科学部ネジっこ班	探れ!! タイヤとネジの真実	100,000円
	4		由利本荘市立本荘南中学校 科学部お手玉班	お手玉プロジェクト	100,000円
	5		由利本荘市立本荘東中学校 科学部	植物由来の防虫材作成	100,000円
	6		由利本荘市立西目中学校 科学部	ペットボトルロケットの飛距離を伸ばすには	100,000円
	7		にかほ市立仁賀保中学校 理科部	植物の成長と土壌の性質 ～野菜に最適な土を求めて～	100,000円
	8		にかほ市立象潟中学校科学クラブ 雲量と天気の関係調査班	私たちは、空にどのくらい雲があると 「曇り」と判断するのだろうか	100,000円
	9		大仙市立大曲中学校 科学部 H2 エネルギー班	毒水玉川は次世代の資源王になれるのか?	100,000円
	10		大仙市立大曲中学校 科学部ヤリタナゴ班	ヤリタナゴが人工産卵するには ～絶滅危惧種を救え～	100,000円
	11	●	美郷町立美郷中学校 科学部	トミヨ属雄物型の研究 Part.11	100,000円
	12	◎	横手市立横手明峰中学校 科学部	寒冷地で作られる伝統保存食 「干し餅」の謎を探る	100,000円
	13	◎	横手市立横手北中学校 科学部	ダイラタンシー流体の成分比の探求と 緩衝材への応用及び実例の考察	100,000円
	14		横手市立横手南中学校 科学部	反射音の正体を探れ	100,000円
	15	◎	湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部	湯沢市の見えない火山の証拠を探る	100,000円
高 学 校	1	◎	秋田県立大館鳳鳴高等学校 生物部	ニホンザリガニの新生息地発見へ向けた調査	130,000円
	2	●	秋田県立大館鳳鳴高等学校 化学部	廃ペットボトルの再利用とケミカルリサイクリング	130,000円
	3		秋田県立能代高等学校 物理班	水滴の体積の変化メカニズム	130,000円
	4		秋田県立能代高等学校 生物班	藻類のタンパク質を増やそう	130,000円

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金	
高 校	5		秋田県立能代松陽高等学校 チーム松陽	雨水による水力発電	130,000円	
	6		秋田県立男鹿海洋高等学校 課題研究波力発電班	ネオジム磁石を利用した波力発電 ～活用への道Ⅱ～	130,000円	
	7		秋田県立秋田高等学校 生物部緑茶班	抗生物質の抗菌効果に影響を与える 緑茶由来物質の化学構造	130,000円	
	8		秋田県立秋田高等学校 生物部がん研究班	ポリフェノールの突然変異抑制効果	130,000円	
	9		秋田県立秋田中央高等学校 躍進探究部生物班	布の材質や天然染料と色あせの関係	130,000円	
	10	◎	秋田県立秋田中央高等学校 躍進探究部地学班	雄物川から供給される碎屑粒子の海岸付近における 運搬堆積作用の解明と鉱物種の分布について	130,000円	
	11		秋田県立新屋高等学校 理科研究部外来生物駆除班	在来水生生物保全に向けて 外来種駆除方法の研究	130,000円	
	12	●	聖霊女子短期大学付属高等学校 科学部人工宝石班	大きな人工ルビーの作成条件に関する研究	130,000円	
	13		秋田県立秋田南高等学校 自然科学部味覚調査班	万能調味料の塩味・うま味増強香気成分による 減塩効果の研究	130,000円	
	14	◎	秋田県立秋田南高等学校 自然科学部マイクロプラスチック調査班	猿田川の土壌や水生動物に含まれる マイクロプラスチックの研究2	130,000円	
	15		秋田県立本荘高等学校 科学部ウォータールーフ班	瓶でできる水の膜についての研究	130,000円	
	16		秋田県立大曲農業高等学校 生物工学部	田沢湖水の中性化効率向上にかかわる研究	130,000円	
	17	●	秋田県立湯沢翔北高等学校 工業クラブ制御班	ドローンを自律飛行させる研究	130,000円	
	個 人	1		阿部 大輔 秋田県立新屋高等学校	「秋田×SDGs」の教材研究②	80,000円
		2		高橋 健一 男鹿市立船越小学校	定点観測用カメラを活用した小学校理科の 授業改善に関する研究	80,000円
		3		高橋 正義 秋田県立能代支援学校	特別支援学校におけるICT機器活用を広げるための校内 職員向けオンライン研修動画の作成と活用に関する研究	80,000円
		4		東海林 拓郎 秋田県立能代高等学校	根箱を活用した「生物」教材の開発Ⅱ ～実験教材の再現性について～	80,000円
5			伊藤 哲 秋田県立大曲農業高等学校	ICTを活用した「きのこ」の 栽培管理システムの研究と開発	80,000円	
6			渡邊 義典 秋田県立湯沢翔北高等学校	3Dプリンターの利用技術に関する研究	80,000円	
合 計					4,410,000円	

# 令和5年度 研究助成校一覧

齋藤憲三・山崎貞一奨励賞受賞校 ●金賞 ◎銀賞 ●銅賞

※平成28年度までにあった特別賞はなくなりました

区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研究課題	助成金
小学校	1	●	にかほ市立平沢小学校 サイエンスクラブ	平沢海水浴場の砂鉄を探ろう	30,000円
	2		にかほ市立院内小学校 サイエンスクラブ	野菜大好き～あま～い野菜を作るには～	50,000円
	3	●	にかほ市立金浦小学校 科学クラブ	スライムを科学する ～これがスライムこれもスライム～	20,000円
	4	◎	にかほ市立象潟小学校 サイエンスクラブ水溶液観察班	食塩水を自然に蒸発させると、なぜ出てきた 個体がビーカーの壁を上るのか？	50,000円
中学校	1		由利本荘市立大内中学校 科学部	ごみのとれるモップ・ほうきの条件は？ ～材質、太さ、長さ、静電気の関係～	100,000円
	2	●	由利本荘市立本荘南中学校 科学部ネジっこ班	探れ！タイヤとネジの真実 part 2	100,000円
	3	●	由利本荘市立本荘南中学校 科学部 Board 班	消臭実感！ダンボール	100,000円
	4	◎	由利本荘市立本荘東中学校 科学部牛乳班	牛乳が生姜で固まる条件とは	100,000円
	5		にかほ市立仁賀保中学校 理科部	太陽光で上手に発電しよう	100,000円
	6		にかほ市立象潟中学校科学クラブ おいしい水調査班	水のひみつ～日本の自然にふれて～	100,000円
	7		大仙市立大曲中学校 科学部液状化研究班	～液状化現象の変化～	100,000円
	8		大仙市立大曲中学校 科学部塩害研究班	塩害・凍害	100,000円
	9		美郷町立美郷中学校 科学部	トミヨ属雄物型の研究 Part.12	100,000円
	10	●	横手市立横手明峰中学校 科学部	しっとりなめらか県南限定スイーツ 「とうふカステラ」の科学	100,000円
	11		横手市立横手北中学校 科学部	LEDを利用した水耕栽培の研究	100,000円
	12	◎	湯沢市立湯沢南中学校 自然科学部	The egg project ～転がる卵の不思議～	100,000円
高等学校	1	●	秋田県立大館鳳鳴高等学校 生物部	ニホンザリガニの新生息地発見へ向けた調査と 校内人工繁殖の実現	130,000円
	2		秋田県立大館鳳鳴高等学校 化学部	地域森林資源の利活用～秋田白炭とニセアカシア 花香気成分	130,000円
	3	●	秋田県立花輪高等学校 科学部プラズマ班	ぶどうを用いたプラズマ発生原理の解明	130,000円
	4		秋田県立能代高等学校 科学部	ネギはハリエンジュ花卉の方向に湾曲するのか	130,000円
	5		秋田県立能代高等学校 理数科物理2班	温度差利用の発電	130,000円
	6		秋田県立男鹿海洋高等学校 課題研究マイクロプラスチック	男鹿周辺海域におけるマイクロプラスチックの現状 について	130,000円
	7		秋田県立秋田高等学校 生物部抗生物質班	ポリフェノールと抗生物質	130,000円
	8		秋田県立秋田高等学校 生物部食品保存料班	食料保存料ナイシンの有効利用に関する研究	130,000円
	9	◎	秋田県立秋田中央高等学校 いぶりがっこ研究班	いぶりがっこを守れ	130,000円



区分	No.	賞	学校名・クラブ名	研 究 課 題	助 成 金
高 校	10		秋田県立新屋高等学校 理科学研究部	在来水生生物の保全活動及び外来生物の有効活用②	130,000円
	11		聖霊女子短期大学付属高等学校 科学部班	ビスマス散晶の形状の謎に迫る	130,000円
	12	●	秋田県立秋田南高等学校 自然科学部マイクロプラスチック調査班	猿田川流域の土壌や水生生物に含まれるマイクロプラスチックの研究	130,000円
	13		秋田県立由利高等学校 2年理数科理数探究化学班	精油および植物成分入りアルコールの抗菌効果の比較	130,000円
	14		秋田県立由利高等学校 2年理数科理数探究生物2班	酵母と水の関係～美味しいパンを作るために～	130,000円
	15	●	秋田県立六郷高等学校 AIプロジェクトチーム	AI(人工知能)の福祉分野への応用に関する研究	130,000円
	16		秋田県立横手高等学校 MDS 探究物理1班	摩擦帯電型ナノ発電機の開発	130,000円
	17		秋田県立横手清陵学院高等学校 自然科学部	ほこりの生成の原因に関する研究	130,000円
	18	◎	秋田県立湯沢翔北高等学校 工業クラブ制御班	ドローンを自立飛行させる研究②	130,000円
個 人	1		阿部 大輔 秋田県立新屋高等学校	地域素材を活用した環境教育の推進	80,000円
	2		伊藤 哲 秋田県立六郷高等学校	ICTを活用した野菜の水耕栽培の研究	80,000円
	3		遠藤 金吾 秋田県立秋田高等学校	理数系探究活動における1人1台端末とグループウェアツールの活用	80,000円
	4		瀬々 将吏 秋田県立横手高等学校	人工知能による理科課題研究の支援	80,000円
	5		渡邊 義典 秋田県立湯沢翔北高等学校	3Dプリンターの利用技術に関する研究II	80,000円
合 計					4,090,000円

[別表] 研究助成状況①(昭和47年度～平成15年度)

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

区 分	小 学 校				中 学 校				高 等 学 校				特 別 支 援 学 校			教 職 員		団 体 ・ 他				合計金額	助成校数	助成件数	参加人員
	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	金 額	参加人員	人員	金 額	数	金 額	数	金 額				
昭和47年度	校 3	件 3	千円 900	人 21	校 3	件 3	千円 1,200	人 36	校 1	件 1	千円 500	人 8	校	千円	人	人	千円		千円		千円	千円 2,600	7	7	65
昭和48年度	9	9	900	86	6	6	1,200	78	2	2	500	26										2,600	17	17	190
昭和49年度	8	8	800	102	6	6	1,200	86	3	3	750	46				7	550	1	100			3,400	17	25	241
昭和50年度	8	8	800	105	8	8	1,200	85	2	2	500	50				8	700					3,200	18	26	248
昭和51年度	6	6	600	106	6	6	900	76	2	2	500	36				11	1,000					3,000	14	25	229
昭和52年度	9	9	900	112	7	7	1,050	91	2	2	500	18				8	900					3,350	18	26	229
昭和53年度	4	4	400	109	5	5	750	79	2	2	500	43				8	850					2,500	11	19	239
昭和54年度	10	10	1,000	139	10	10	1,500	134	3	3	750	38				5	600					3,850	23	28	316
昭和55年度	16	16	1,600	179	11	11	1,650	152	1	1	250	34				5	700					4,200	28	33	370
昭和56年度	19	19	1,900	248	16	16	2,400	337	3	3	750	52				5	500	1	1,000			6,550	38	44	642
昭和57年度	11	11	1,100	139	10	10	1,500	94	2	2	500	51				7	900	1	300			4,300	23	31	291
昭和58年度	16	16	1,600	185	10	10	1,500	177	2	2	500	39				7	1,000	2	730			5,330	28	37	408
昭和59年度	18	18	1,800	255	13	13	1,950	185	3	3	700	46				5	800	4	1,050			6,300	34	43	491
昭和60年度	20	20	2,000	353	17	17	2,550	185	2	2	500	39				5	700					5,750	39	44	582
昭和61年度	19	19	1,900	221	15	15	2,250	207	3	3	750	60				5	750	1	1,000			6,650	37	43	493
昭和62年度	18	18	1,800	367	10	10	1,500	95	5	5	1,250	91				6	900					5,450	33	39	559
昭和63年度	18	18	1,800	271	10	10	1,500	100	3	3	750	59				3	600	3	900	特別1	2,000	7,550	31	38	433
平成元年度	18	18	1,800	240	9	9	1,275	89	3	3	750	36				2	200	1	500	特別1	2,000	6,525	30	34	367
平成2年度	17	17	1,700	273	13	13	1,950	150	2	2	400	21				3	550			特別1	2,000	6,600	32	36	447
平成3年度	23	23	2,300	358	7	7	1,050	78	2	2	500	42				4	800			特別1	2,000	6,650	32	37	482
平成4年度	24	24	2,400	324	23	23	3,400	323	9	9	2,250	65	2	350	15	2	450			大学1	4,000	12,850	58	61	729
平成5年度	14	14	1,400	188	12	12	1,800	127	4	4	1,000	65	1	200	4	2	500			大学1	4,000	8,900	31	34	386
平成6年度	25	25	2,500	295	17	17	2,550	202	7	7	1,750	117	2	250	21	1	200			大学1	4,000	11,250	51	53	636
平成7年度	19	19	1,900	245	13	13	1,950	179	7	7	1,750	89				1	200			大学1	4,000	9,800	39	41	514
平成8年度	21	21	2,100	277	15	15	2,250	215	8	8	1,840	99				1	200			大学1	4,000	10,390	44	46	592
平成9年度	20	20	2,000	208	13	13	1,950	100	7	7	1,610	68	2	300	35					大学1	4,000	9,860	42	43	411
平成10年度	32	32	3,200	411	14	14	2,100	192	4	4	920	45	1	150	34					大学1	4,000	10,370	51	52	682
平成11年度	19	19	1,900	284	13	13	1,950	127	2	2	460	21								大学1	4,000	8,310	34	35	432
平成12年度	12	12	1,130	161	14	14	2,100	223	5	5	1,150	39	2	300	42					大学2	5,000	9,680	33	35	465
平成13年度	18	18	1,790	306	15	15	2,230	156	6	6	1,380	103								大学2	4,800	10,200	39	41	565
平成14年度	13	13	1,300	210	17	17	2,550	231	5	5	1,150	38				1	200			大学2	2,500	7,700	35	38	480
平成15年度	11	11	1,060	132	18	18	2,620	193	6	6	1,210	43				1	200					5,090	35	36	369

[別表] 研究助成状況②(平成16年度～令和5年度)

公益財団法人齋藤憲三・山崎貞一顕彰会

区 分	小 学 校				中 学 校				高 等 学 校				特 別 支 援 学 校			教 職 員		団 体 ・ 他				合計金額	助成校数	助成件数	参加人員
	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	件数	金 額	参加人員	校数	金 額	参加人員	人員	金 額	数	金 額	数	金 額				
平成16年度	校 11	件 11	千円 1,060	人 127	校 15	件 15	千円 2,400	人 151	校 5	件 5	千円 1,200	人 38	校	千円	人	人 1	千円 200		千円		千円	千円 4,860	31	32	317
平成17年度	11	11	1,180	138	14	14	2,160	199	4	4	990	40				1	200					4,530	29	30	378
平成18年度	12	12	1,270	135	13	13	1,950	149	7	7	1,690	42										4,910	32	32	326
平成19年度	11	11	1,110	262	13	13	2,100	131	7	7	1,700	42				1	200					5,110	31	32	436
平成20年度	15	15	1,570	322	11	11	1,790	131	8	8	2,000	63				4	800					6,160	34	38	520
平成21年度	11	11	1,130	297	12	12	1,970	112	9	13	3,150	159				5	800					7,050	32	41	573
平成22年度	13	14	1,330	389	14	15	2,400	138	12	18	3,900	158				1	100					7,730	39	48	686
平成23年度	10	11	1,010	135	14	15	2,330	119	13	22	4,370	198				1	200					7,910	37	49	453
平成24年度	9	9	910	95	13	13	2,090	140	17	25	5,820	282				1	200					9,020	39	48	518
平成25年度	8	8	820	96	13	15	2,560	147	16	27	6,480	301				3	600					10,460	37	53	547
平成26年度	11	11	1,040	163	16	17	2,500	176	20	33	6,590	359				7	700					10,830	47	68	705
平成27年度	10	10	890	116	13	15	2,200	137	18	30	6,000	278				6	850					9,940	41	61	537
平成28年度	10	10	750	123	11	13	1,560	145	21	34	4,570	282				7	520					7,400	42	64	557
平成29年度	9	9	4,300	78	12	16	1,560	151	21	31	3,940	209				8	530					6,460	42	64	446
平成30年度	7	7	350	62	13	18	1,800	169	21	29	3,650	231				4	320					6,120	42	63	466
令和元年度	6	6	280	74	13	22	2,150	157	17	22	2,755	174				6	480					5,665	36	56	411
令和2年度	5	5	230	53	15	21	1,976	147	18	25	3,220	205				8	640					6,066	38	59	413
令和3年度	5	6	280	59	14	17	1,700	164	15	20	2,600	158				6	480					5,060	34	49	387
令和4年度	5	6	280	72	13	15	1,440	105	12	17	2,210	128				6	480					4,410	30	44	311
令和5年度	4	4	150	34	10	12	1,200	116	14	18	2,340	129				5	400					4,090	28	39	284
合 計	681	685	66,350	9,740	638	678	97,361	7,666	393	513	97,745	5,103	10	1,550	151	194	23,650	14	5,580	18	52,300	344,536	1,722	2,112	22,854